

## 《編集後記》

『日蓮学』第五号をお届けいたします。本号は左記の四先生より論文二編、書評二編の玉稿を賜りました。

まず中尾堯先生の「身延文庫所蔵 日重著『和語雜雜抄』の書誌と概要」は、身延山第二十世住持日重（一五四九—一六一九）の著作『和語雜雜集』について、同じく日重の著作である『見聞愚案記』との関係性を述べた上で、その構成・目録と内容を概観する論文となっています。『和語雜雜集』は仏教学の範疇を超えて国文学の知識をも必要とする内容、達筆な筆致などから解読・翻刻が困難とされていたこともあり、その全体像を紹介した本論文はまさに待望の一編と言えます。

Emanuele Davide Giglio 先生の *Sulla forma originale e sulla trasmissione storica de Il vero aspetto è tutti i fenomeni* (Shōhō Jisso-sho 諸法実相鈔) は、真偽論の存する写本遺文である『諸法実相鈔』を検討した論文です（イタリア語）。同鈔の最古の写本である朝師本に特に注目しながら、宛先（最蓮房）の問題や、『他受用御書』収録のバージョン等との相違点などを検討し、同鈔の来歴を探っています。更に、かかる文献学的検討を踏まえて、旧来の日蓮遺文研究の方法論を問い直していくという、意欲的な内容になっています。

岡本一平先生からは、本研究所刊行の『法華経研究叢書Ⅱ 妙法蓮華経優波提舍の文献学的研究』（望月海慧・金炳坤編、二〇二〇年）の書評をお寄せいただきました。同書は、菩提流支訳の世親『法華論』についての最新研究成果をまとめた、序一篇、論文四篇、影印二篇、資料二篇、合計九篇からなる研究叢書となっています。岡本先生は同書の意義を、江戸期の版本の重要性を再評価した点に求め、また同書における円弘撰『妙法蓮華経論子注』の活用に着目して論じておられます。

石田智宏先生からは、本研究所刊行の Kaie Mochizuki and Byungkon Kim (eds.), *Bibliography of the Studies on the Saddharma-pundarikashira* (1844-2020), Lotus Sutra Studies I (『法華経研究叢書』一、二〇二〇年) の書評をお寄せいただきました。同

書は、一八四四年から二〇二〇年までの間に発表された『法華経』関係の研究文献を網羅した目録で、これまで類例のなかったものです。石田先生は同書の概観と意義について紹介しつつ、今後の展開についてもご意見くださっております。

末筆ですが、国際的なレベルでの日蓮研究の今後いっそうの発展、そしてその発展の一翼を本研究所が担えることを心より願ひまして、第五号の編集後記といたします。

(岡田文弘記)